

令和5年12月19日（火曜日）

## がん患者へ真心タオル帽子

岩手ホスピスの会 盛岡二高で製作講習

岩手ホスピスの会ボランティアの手ほどきを受けながらタオル帽子を作る生徒



盛岡

岩手ホスピス

の会（川守田裕司代表）は15日、盛岡市上ノ橋町の盛岡二高（鈴木広樹校長、生徒546人）で、抗がん剤治療で脱毛に悩む患者に贈るタオル帽子作りの講習会を開いた。

同校家庭クラブのメンバーと生徒有志の34人が参加。同会は2008年からタオル帽子を作製し、全国の病院会員ランティアの手ほどきを受けるながら、フェースタオルを一針ずつ丁寧に縫い上げ、医大付属病院や県立中部病院思いを込めた色とりどりのタオルなどに贈る。

2年の児玉希香さんは「抗がん剤治療の患者さんを支援する活動に、高校生の私たちも貢献できて誇らしい。帽子をかぶつて笑顔になつてもらえたならうれしい」と望んだ。

（岩手日報）

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。